

Management Club Report

Apr.2010/Vol.88

Monthly Opinion 《ワークライフバランスの実践》

先月は『ワークライフバランスの導入』について述べましたが、今回は『ワークライフバランスの実践』について詳しく述べて行きます。WLBとは何もスタッフのためだけに存在するものではなく、最も過酷な労働環境下にある院長を救う意味をも含んでいることを理解してもらいたく、『導入』から『実践』へと筆を進めた次第です。

夜8時や9時までオープンしている歯科医院のスタッフの労働環境は決して健全であるとは言えませんが、それでもスタッフにはシフト制や週休3日制などが適用され、労基法の範囲内で一定の保護がなされています。ところが院長にはこの保護がありません。中には休みなしで働いている人も大勢います。朝9時から夜9時10時まで診療を行い、日曜診療もこなし、たまの休みもセミナーに参加するなど、生活のすべてが仕事一色に染まっており、WLBを著しく欠いているケースが散見されます。

そのような院長の医院ではWLBなど考えも及ばないでしょうが、余裕のない院長の医院は、院長自身が倒れるか、そのような院長に不安を感じる患者が離れて行くかして早晚立ち行かなくなるなど、『働き者院長』の狙いとは全く逆の結果をもたらす危険性があります。

医院を継続させるため、自分の身を守るため、そしてスタッフが生き生きと働けるようにするために、真剣にWLBの導入と実践を考えてもらいたいと思います。院長は経営者であると同時に現場の第一線で働く最大の労働者でもあるのです。

1

100年続く歯科医院が示した組織のあり方

医療法人真稜会の新医院アイデンタルクリニック完成

昨年10周年記念講演会でトップバッターを務めてくれた井上敬介先生を覚えているでしょうか。所々というよりも随所に“アキハバラ”を出しながらも骨太の経営論を展開してくれた若手のホープです。その井上先生が、3年越しで計画してきた新医院をとうとう完成させました。

私たちは、オープニングに向けた院内研修の依頼を受け、3月31日に宮原が、翌4月1日は向が、それぞれ内容を変えて研修を行ったのですが、まずその時の模様を、本題に入る前に伝えておきたいと思います。

それは医療法人真稜会という組織は、かつてそのような言葉はなかったにせよ、長

